

会 長 新 任 挨 拶

公益社団法人 日本獣医師会

会 長 藏 内 勇 夫



このたび、会員である地方獣医師会のご承認を得て、公益社団法人日本獣医師会会長の大役をおおせつかることになりました藏内勇夫です。

私は、前任の山根会長がこれまで8年にわたり粉骨碎身され、獣医界の諸問題の対応に尽力してこられた様子を目の当たりにするとともに、副会長の立場でできる限りの補佐をしてまいりました。

その私が今、山根会長の後を引き継ぎ、獣医界の舵取りをお引き受けする立場となったことに、身の引き締まる思いがいたしております。

動物の健康の確保や動物の福祉の増進、さらに人と動物の共通感染症や食の安全安心への社会的関心が高まる中で、獣医師、獣医師会に国民が寄せる期待は一層の高まりをみせています。

このような状況の中で、この度の公益法人改革においては、多くの地方獣医師会が公益法人としての認定を受けられました。すなわち、我々獣医師会は今後、これまで以上に社会貢献に邁進する道を選んだわけであり、国民の期待に応えられるような活動を展開していくことが求められることとなります。

一方、獣医界には多くの解決すべき問題が山積しております。いずれも短期間に解決できる単純な案件ではありませんが、私は、それぞれの問題に優先順位をつけ、スピード感を持って対応に当たりたいと考えています。

中でも、喫緊の課題として、①獣医療を提供する体制の整備、②獣医学教育の改善・充実、③チーム獣医療提供体制の整備、④動物の愛護及び管理の的確な実施、⑤勤務獣医師の処遇改善等があります。

特に、私が重要な問題として注力したいのは、従来からの懸案とされていた狂犬病予防事業の適正化についてであります。この問題は、各地方獣医師会に大きく影響する問題でもあり、公益法人としての獣医師会の運営も考慮しながら、日本獣医師会、地方獣医師会が連携して対応してまいらねばなりません。

また、先日の第70回定期総会にご臨席いただいた麻生太郎副総理・財務大臣・金融担当大臣から、以下のような示唆に富んだご挨拶をいただきました。

「私と藏内先生はともに福岡県出身であります。日本医師会の横倉義武会長も同郷であります。

最近、鳥インフルエンザをはじめとする人と動物の共通感染症は、国民の大きな関心事となっております

が、その対応においては、医師と獣医師が連携することが必要不可欠であります。

その意味において、藏内先生が新会長に選任され、医師会、獣医師会ともにそのトップリーダーが福岡県を基盤とする者同士ということになれば、両者の協力関係を構築するうえで、願ってもない環境が生まれるのではないかと期待するものであります。」という内容のものであります。

まさに、私が現在意図している道筋を明確に示していただいたお言葉といえます。

共通感染症の予防において、いわば川上にあたる動物を受け持つ獣医師と、川下にあたる人を受け持つ医師が緊密な連携を保つことの重要性は今更申すまでもなく、この件に関しては、昨年10月、世界獣医学協会会長と世界医師会会長が「グローバル・ヘルス向上のため、ワン・ヘルスの概念のもと、獣医学と医学が一つになり、連携して取り組む。」という覚書が交わされております。

日本医師会の横倉会長とは旧知の間柄であり、すでに獣医師会と医師会との連携についても意見交換を行ったところです。「獣医師と医師の連携の構築」は、私の日本獣医師会会長としての使命の一つとしたいと考えています。

さて、このような課題に対応するうえで、私が特に強調したいことを二点申し上げます。

その一つは先ほども申し上げたスピード感のある対応であります。私は、永く政治の世界で仕事をさせていただいてまいりましたが、この世界で特に重視されるのがスピード感であります。政治手法は正しくとも、スピード感を欠いたために社会の評価を得られなかった例が多くあります。現安倍政権が高い支持率を得ているのも、昨年末の首相就任以来、矢継ぎ早に繰り出される経済政策、外交政策等のスピード感を伴った政治が国民に好感を持って受け入れられたことが大きな理由になっています。

この点に関しては私がこれまで築いてきた、政治力を含むすべてのチャンネルを駆使して、情報を収集分析し、発信しながら対応してまいりたいと考えています。

もう一点は、日本獣医師会と地方獣医師会・全国獣医師との連帯であります。諸問題の解決のためには、日本獣医師会と全国の獣医師会が情報を共有し、一丸となって事に当たらなければなりません。身内である獣医師が一つになることもできず、多くの国民を説得し、その支持を得て、我々の要望を実現することができるはずもありません。今後とも、地方獣医師会からは忌憚のないご意見をいただき、日本獣医師会からも率直な意見を申し上げて風通しのよい組織を作り、わが国獣医師の意志の結集を図ってまいりたいと思っております。

以上の二つのポイントに留意しながら、日本獣医師会は、問題解決に向けて地方獣医師会の皆様とともに自ら汗を流し、「熟慮断行」する執行部を標榜し、一步でも前進すべく努力を重ねてまいりたい決意です。

ここに改めまして、地方獣医師会、そして構成獣医師の皆様のご理解、ご協力をお願いし、私の就任の挨拶といたします。

公益社団法人 日本獣医師会 役員名簿

(平成25年6月27日現在)

役員区分		氏名等
会長		藏内 勇夫 (福岡県獣医師会理事)
副会長		近藤 信雄 (岐阜県獣医師会会長)
		砂原 和文 (秋田県獣医師会会長)
専務理事		矢ヶ崎 忠夫 (常勤)
地区理事	北海道地区	高橋 徹 (北海道獣医師会会長)
	東北地区	山内 正孝 (青森県獣医師会会長)
	関東地区	高橋 三男 (埼玉県獣医師会会長)
	東京地区	小松 泰史 (東京都獣医師会副会長)
	中部地区	土屋 孝介 (愛知県獣医師会会長)
	近畿地区	三野 營治郎 (三重県獣医師会会長)
	中国地区	南 三郎 (鳥取県獣医師会会長)
	四国地区	上岡 英和 (高知県獣医師会会長)
	九州地区	坂本 紘 (鹿児島県獣医師会会長)
職域理事	学術・教育・研究 (兼 獣医学術学会)	酒井 健夫 (麻布大学客員教授)
	産業動物臨床	麻生 哲 (大分県獣医師会会長)
	小動物臨床	細井戸 大成 (大阪市獣医師会会長)
	家畜共済	横尾 彰 (全国農業共済協会企画研修部次長)
	家畜防疫・衛生	平井 清司 (栃木県県央家畜保健衛生所所長)
	公衆衛生	森田 邦雄 (全国はっ酵乳乳酸菌飲料協会専務理事)
	動物福祉・愛護	木村 芳之 (群馬県獣医師会会長)
監事		岩上 一紘 (栃木県獣医師会会長)
		玉井 公宏 (和歌山県獣医師会会長)
		波岸 裕光 (北海道獣医師会前会長)

注：「役員区分」の「副会長・監事」の氏名の掲載順位は、五十音順